

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
北海道	札幌市立平岸西小学校	コロナ禍において「学ぶ力」を高める取組の在り方 ～特別活動の充実および学校の授業と「家庭での学習」の効果的な組合せを図る～	自ら学ぶ子どもを育むためには、コロナ禍であっても「こうすればできる」と取り組み方を工夫して特別活動の充実を図り、よりよい人間関係や生活を築く力を高めていくことが前提である。そして、「家庭での学習」において課題に対する考えをもつ力を高め、「課題を捉える→つなげて考える→まとめる・振り返る」という3つの場で構成する問題解決的な学習において「つなげて考える」場から始めるという効果的な組合せが、「学ぶ力」を高める有効な取組となる。しかし、「つなげて考える」場で、教師が子どもの考えを整理してつなげている傾向が強く、子どもが自分で多様な見方・考え方を「つなげて考える」力を高めていくことが課題である。
山形	鶴岡市立朝陽第四小学校	統合第2ステージの「幸せをつなぐ学校」づくり ～生き方を問い、学力を構築する多面的・重層的なアプローチ～	<p>1 【視点1】生き方をはぐくむ学校体制の強化から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議等の場で、経営方針や重点を踏まえた提案や振り返りが多くなった。</li> <li>・諸活動の反省が子どもの育ちの確認や指導の見通しに直結してきた。</li> <li>・若手教員の指導力、教育観が着実に成長してきている。</li> <li>・「対話」「判断力」「あいさつ」にかかわる子どもの育ちが多く見られる。</li> <li>・家庭、地域の協力体制が充実してきた。(語る会、おはよう隊等)</li> </ul> <p>2 【視点2】生き方を土台とした学力の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手意識を持ち、対話を通して学ぶ姿が多く見られるようになってきた。</li> <li>・学習サイクルの形成と好循環から、授業の「好き」「わかる・できる」の割合が上昇してきている。</li> <li>・狭い意味での学力ではなく、生活につながる生きる力となる学力の構築に向け、職員が組織的に取り組む機運が高まってきた。</li> </ul>
山形	尾花沢市立尾花沢小学校	主体的・対話的で深い学びを実現するカリキュラムデザイン ～習得と探求のプロセスを大切に国語科の授業づくりをとおして～	<p>【本文】</p> <p>一昨年度から、国語科に絞って研究を進め、全ての学力の基盤の育成を目指してきた。研究成果を生かし、今年度も習得→活用(探究)→日常化の3つのSTEPで授業づくりを行い、一人1台のタブレットの導入により、さらに探究的な学びが進むことを目指して研究を進めた。</p> <p>成果(○)と今後の課題(●)</p> <p>○タブレットを活用することで、発言の少ない児童や考えを上手く表現できない児童の考えもリアルタイムに把握することができ、考えのギャップを生かした課題づくりや考えの交流が容易になった。探究的な学びの手助けとなりうる実感が得られた。</p> <p>○教材準備の負担感が減り、学年を越えて共有することができるようになった。</p> <p>●まずは授業づくりの本質を捉えたうえで、タブレット活用法を模索していく必要がある。</p>
山形	高島町立二井宿小学校	地域教育力高揚を図るためのPTAと学校の取組み ～51年目を迎えた共同研修「私たちの学級」～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も引き続き、保護者の方々のご理解とご協力を得て「私たちの学級 第51集」を発行することができた。</li> <li>・各家庭での実践を親子で一緒になって振り返り、かつ他の家庭の実践を読むことで、今後の新たな目標を立てる話題作りにも大きな一助になっている。</li> <li>・コロナ禍で家庭訪問の実施ができないことから、学校側として家庭での様子を把握でき、さらに担任が子どもの頑張りを認め、褒める場面にもつながっている。</li> <li>・校区全戸配布を継続しており、子どものいない家庭にとっても学校と家庭の取組みを理解していただくことに役立っている。</li> </ul>
福島	塙町立塙小学校	自分の考えをもち、ともにかかわり合い、高め合う児童の育成 ～リーディングスキル(RS)の視点を取り入れた授業の工夫～	<p>1. 成果</p> <p>○リーディングスキルの視点から、親和性の低い言葉や、つまづくことが予想されるポイントを意識するようになった。そのポイントに指導の工夫を取り入れることで、レディネスをそろえたり、正確に認識したりすることにつながることができた。</p> <p>○子どもたちがよく使うあいまいな表現ではなく、教科書の根拠をもとに理由を述べたり、定義の根拠をもとに具体的に表現させたりすることにつながった。</p> <p>2. 課題</p> <p>●リーディングスキルについては、研修が必要である。まず、教師自身がリーディングスキルを意識して取り組むことである。目的は、教科の本質に根差した授業づくりであるが、リーディングスキルとの関連をより効果的に生かしていけるよう、実践を通して研究を深めていきたい。</p>
福島	小野町立小野小学校	教師も子どもも「自ら創り出していく学校」を求めて ～学校経営を根本から見直した「STEAM教育を加味した探求型ふるさと学習」の実践～	<p>1 研究の成果(効果があった教育活動)</p> <p>① 感動のある学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材との価値ある出会いとSTEAM教育を視野に入れた多様な表現活動による学び合い</li> </ul> <p>② 主体的な学びを継続させる学びの連続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の拡散と収束が連続する学習展開</li> </ul> <p>③ 魅力ある地域教材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任自らの教材開発</li> <li>・地域の人との出会いと連携</li> </ul> <p>2 研究の課題</p> <p>STEAM教育を視野に入れた教育活動の充実</p> <p>① 子どもたちが学びを「極める」ことができるカリキュラムマネジメントと教師のこども感の変革</p> <p>② 子どもたちが学習した成果を生かして新たな概念を「生み出す」学習と新たな自己を「生み出す」評価の確立</p>

令和3年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
群馬	渋川市立伊香保中学校	長時間勤務を改善し、学校の教育力向上を図る取組 ～タイムマネジメントの視点から～	働き方改革は、教員のワーク・ライフ・バランス充実を図ると共に、学校の教育力を強靱化する取組であると捉え、タイムマネジメントの視点をもって業務改善に取り組んだ。 ○退勤時刻と部活動終了時刻とを一致させた成果として、定時退勤が促進され、時間外勤務が減少した。また、残業しやすい体質が改まってきた。 ○校時表を見直し放課時刻を繰り上げて、教員が自由に研究できる時間を増やした。授業研究のみならず、新学期指導要領完全実施やGIGAスクール構想といった新たな教育課題について積極的に対応する職員集団へ変化しつつある。
群馬	群馬県立吾妻中央高等学校	農業教育における地域農業に貢献する人材の育成 ～動物科学コースの教育活動を通して～	この研究は、本校生物生産科動物科学コースの教育活動を通して、地域農業に貢献する人材を目指したものである。対象生徒は平成30年度に入学した生徒17名である。対象生徒の進路希望先をみると、農業系を希望している生徒は1名のみであり、全員が非農家であった。この対象生徒に様々な特色ある教育活動を実施し、農業の魅力を伝えることで、次のような成果を得ることができた。入学時は農業系の進学希望は1名のみだったが、卒業時には7名が農業系の進路先を選択した。また、この研究をする前の生徒の卒業時の農業系の進学者は3名であったので、増加していることがわかる。今後は、これらの教育活動を継続し、地域連携の強化や農業のグローバル化などの時代のニーズに対応できる教育活動も取り入れていきたい。
埼玉	さいたま市立大宮別所小学校	「特色ある学校づくり」を目指した学校運営の工夫・改善 ～「見える化」による教科等の教育活動の充実を目指して～	今まで1つの教科学習という視点のみにとどまっていた教育活動が、「見える化」することで、教育活動を点で見ていた教職員が、複数の視点で教育的意義を考えることができるようになり、それが、結果として教育活動の質を高めることにつながったことが大きな成果の一つである。児童にとっても、より有意義な学習活動が増える状況になっており、令和4年度についても、更なる教育活動の充実が見込める状況である。また、「見える化」は「開かれた学校づくり」の視点からも、非常に有益で、多くの保護者並びに地域の皆様等から、今後の継続並びに更なる充実を求める声をいただいている。引き続き、令和4年度についても更なる充実を図りながら取り組んでいく予定である。
埼玉	上尾市立原市南小学校	「なぜ?」「どうして?」をもとに、学び続ける児童の育成 ～系統性の重視と論理的思考力の充実を図る学習指導～	主な研究成果 (1)児童アンケートの分析から 【算数】 ○算数の授業が好きと考える児童が増えている。 ○「問いカードを意識しながら、考えを深められたと感じるか」という質問に関する有意差が確認できた。わかりやすい手立てを講じることで、児童自身で「いつでも?」「ちがうところは?」と様々な視点を意識しながら、自分の考えを深めている姿が確認できた。 【理科】 ○学習過程の中で、予想や実験計画の段階で、目的意識をもたせた言語活動の充実を図る時間を毎回設定することで、児童の能動的な思考活動を促すことができた。 (2)上尾市立小・中学校学力学習状況調査より ○算数の学力が上昇している。特に現6年生は、観点別集計から思考・判断・表現の 観点が全国と比較して高い水準にある。
埼玉	戸田市立喜沢小学校	未来社会をたくましく生き抜くための資質・能力の育成 ～ICTを効果的に活用した探求的・協働的な学びを通して～	○学習者主体の探究的・協働的な学びへと授業スタイルを転換させることで、児童が主体的に学びに向かい、自分で考え行動に移す様子が教育活動のあらゆる場面で大幅に増えた。 ○ICTを活用し、児童が活動の様子や経過、成果を学校の内外へ積極的に発信する場を意図的に設定したことにより、自律的に学習活動に取り組む様子や自分事として考え、学びに向かう姿が見られるようになった。 ○産学民と連携し、民間企業や地域人材の知のリソースと最先端テクノロジーを教育活動に活用することで、これからの時代に求められる資質・能力を多面的・多角的に育成する機会を得ることができた。 ○ICTの積極的な活用により、教師主導型の授業から実社会につながる探究的な学びや多様な他者との協働的な学びへ授業スタイルを転換させることができ、教師の意識改革や指導力の向上にもつながった。
埼玉	毛呂山町立川角小学校	グローバル社会に貢献する資質を育成する外国語・国際理解教育の推進	○外国語教育主任のリーダーシップを生かした組織的な対応で、児童の学力向上が進みつつある。外国語教育主任がリーダーシップを取り、学校全体で外国語教育の質を高める仕組み作りを進めている。そのことが教職員の意識改革を生み、外国語教育に対する苦手意識を軽減させている。 ○町教育委員会や中学校との連携や協力が、外国語学習指導の質を高めつつある。校内の努力だけでは、外国語教育の質の向上には限界があるが、町教委や中学校の多方面にわたる指導・支援・助言によって、現在の好循環を生むことができた。実践を校内だけで完結させず、町教委や中学校と共有することで、さらなる改善(PDCAサイクル)を進めることができると考えている。

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
埼玉	川越市立大東東小学校	自分の思いや考えを伝え合うことのできる児童の育成 ～主体的・対話的で深い学びを通して、表現力を伸ばす指導方法の実現～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の授業づくりや指導力を高め合うために、授業研究会では視点を絞った活発な意見交換ができ、指導者の先生方からは、特別活動の在り方や、課題の設定から合意形成、実践、振り返りまでの具体的なポイント、また学力向上に向けての話し合い活動について、具体的にご教授いただくことができました。</li> <li>・全学年における授業公開は、それぞれの学年の児童のコミュニケーション能力の育成や学力の向上のため、また教員自身の授業の改善に大きく役立ったと考えている。</li> </ul> 今後の課題について <ul style="list-style-type: none"> <li>・合意形成を図るための手立てについてさらに研究を進め、より良い話し合いの在り方や児童の主体的な学びを支援する方法を考えていきたい。</li> </ul>
埼玉	熊谷市立熊谷南小学校	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の創造 ～生きて働く知識・技能の習得を目指して～	1 成果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で「見通し」と「振り返り」を重要視してきた。また、「主体的」「対話的」「深い学び」はそれぞれが関わりあって高まっていくことを意識して授業改善をし生きて働く知識・技能を習得させてきた。これまでの研究が「学びに向かう力」を育成する基盤となり、さらに研究を深められた。具体的には、「振り返り」を継続して記述させてきたことで、児童がメタ認知する力をつけてきており、教師もまたそれらを「主体的に学習に取り組む態度」として評価することができた。</li> </ul> 2 課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も「主体的・対話的で深い学び」を実現するとともに、教科横断的に学習内容を精選、統合する「総合的な学習の時間」を中核としたカリキュラム改善をさらに進めていく。</li> </ul>
埼玉	加須市立加須小学校	自然と調和のとれた学校を目指して ～自然にふれる活動を通して～	1 成果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・目指す学校像の一つである「環境のよい学校」の中の「花と緑に囲まれた心やすらぐ環境づくり」を達成するため、児童・職員・家庭・地域の連携のもと、環境緑化に取り組むことができた。</li> <li>・埼玉県学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査での児童の変容が見られた。</li> </ul> ①質問項目「今住んでいる県や市町村の歴史や自然に関心を持っていますか。」に対して「持っている」と答えた児童の割合(令和3年度6年生の結果) 令和元年度→ 令和3年度 本校の割合 34.7% → 36.5% 埼玉県の割合 40.7% → 28.5% 埼玉県の割合との差 -6.0%→+8.0% ②質問項目「将来の夢や目標を持っていますか」に対して「持っている」と答えた児童の割合(令和3年度6年生の結果) 令和元年度→ 令和3年度 本校の割合 75.0% → 69.8% 埼玉県の割合 75.6% → 65.2% 埼玉県の割合との差 -0.6%→+4.6% 環境緑化の取組だけが影響したかどうかは明確ではないが、児童の自然への関心や、将来の夢を持つことにより影響があったことがうかがえる。
埼玉	三郷市立丹後小学校	「できる・わかる」を目指し「誰一人取り残さない」体力向上の取り組み ～新型コロナウイルス感染防止を行いながら、生き生きとした学校生活を送るための工夫～	研究の成果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本取組により、本校児童の体力は向上し新体力テストのすべての項目において県平均を上回った。</li> <li>・体育の授業スタイル「丹後スタイル」の確立や技能研修会、学習過程の工夫を実践したことで、「わかった」「できた」で溢れる授業が増え、児童の技能や運動好き児童が増えた。</li> <li>・教材教具開発により児童の自己評価が容易になり学習の成果が明確になった。</li> <li>・思いやり運動できる場・教材、教具づくりにより児童の運動量が向上してきた。</li> <li>・学習の中で集団所属感を継続して味わわせることで仲間とのかかわりが増加し「諦めない児童」「協力できる」児童が育成できた。</li> <li>・休み時間の使い方改善・家庭運動により授業外の運動習慣が身についてきた。</li> <li>・児童自身の自主的な取り組みの推奨(委員会との連携)や一人一人の伸びを適切に評価することで一人一人が率先して運動に取り組むようになった。</li> <li>・健康教育の継続により基本的な生活習慣が改善した。</li> <li>・コロナ禍の中での教育活動を模索していく中で、活動を工夫したり、衛生管理を意識した取り組みを考え直す良い機会となった。</li> </ul> 今後の課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰一人取り残すことのない体育授業・取組についての研究の継続。</li> <li>・児童が豊かなスポーツライフを実現するために、長期的な視点を持った取組の研究。</li> </ul>



都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
埼玉	三郷市立彦糸小学校	情報活用能力を育成する学校図書館の在り方 ～教科と関連させた教育活動の充実～	<p>研究の成果・今後の課題について</p> <p>1 研究テーマ 本校は国語科を中心とした学校図書館を活用した研究を行っている。国語科の説明文や物語文を通して著者の表現力を学び、読書活動を通して想像する力、語彙力を学ぶことができる。そこで学校図書館にある情報(新聞、図書、パンフレット、インターネット等)を活用しながら、情報の収集・比較・検討を行い、課題に沿った内容をまとめる表現力の育成、読書活動を通して想像力・語彙力を育成する指導法を研究している。</p> <p>2 取組の成果</p> <p>(1) 集団読書 同じ資料を準備し、集団読書を行うことで、個々の児童がどんな場面で何を考え・思うことができたか伝え合う時間を設定し取り組んだ。互いに意見を出し合うことで、様々な視点に眼を向けることができた。各学年に1クラス分(40冊)の資料を購入し、集団読書や国語科の授業に活かすことができた。※集団読書用の資料は、図書部会で各発達段階に即した内容の文学作品や説明文を選定し、購入した。</p> <p>(2) 国語科の研究授業 文学作品や説明文の研究授業を通して、児童に語彙力や伝え合う力が少しずつ身についてきた。また、他の作品に触れたり、リーフレットやパンフレットの作品を作ったりしながら、自分の考えを深めることができた。</p> <p>(3) 百玉計数器の活用 学校図書館にある4類の本棚から算数クイズに係る内容の問題にチャレンジした。特別支援学級では、一人一人に百玉計数器を準備し、足し算や引き算の計算に取り組んだ。5や10の数の概念が把握しやすいので、楽しみながら学ぶことができた。</p> <p>(4) 講師を招致し調べる学習コンクール説明会の実施 講師を招致し、調べ方のポイントを知ること、テーマの見つけ方、図書や新聞、パンフレット等の活用の仕方の説明会を実施した。今年度は、3年生の女児が全国調べる学習コンクールで奨励賞を受賞した。</p> <p>(5) 読書感想画コンクール 国語科で学習した内容や読書感想文で書いた作文をもとに「読書感想画」に取り組んだ。自分の考えや思いを絵で表現することで読書の幅や内容を深く読み解くことに近づけた。埼玉県教育長優秀賞及び全国奨励賞1名の入賞、埼玉県奨励賞5名入賞。</p> <p>5 課題 ・図書やタブレットを活用し、調べ学習や新聞づくり等に取り組んだが、内容を要約する力までに至らなかった。来年度も国語科を中心に研究を深めていく。</p>
千葉	市原市立清水谷小学校	小学校終了までに、600～700語程度の英単語が聞いてわかる・読んでわかる子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級図書、図書室に英和・和英辞書を置くことや単語カードを各自がもっていることで知りたい単語を児童が意欲的に調べることができた。</li> <li>○給食時に昼の放送で英語クイズや英語での放送することで、英語に親しむことができた。</li> <li>○英語がわからないときや伝わらないことがあっても、ジェスチャーや身体を使った表現をすることでコミュニケーションがとれることを体感できた。</li> <li>○授業の中に、ペアやグループで伝え合う活動を取り入れることで、表現力が豊かになり、単語理解を深めることができた。</li> <li>○単語カードを覚えるだけでなく、英語ビンゴカードによるゲーム、音楽や歌によるリズムカルな学習により英単語を聞く・読む力を付けることができた。</li> <li>○外国語の授業は児童にとって「楽しむもの」が定着した。今後も意欲的に学習する児童の育成を目指して行きたい。</li> </ul>
千葉	八千代市立阿蘇中学校	「社会に開かれた教育課程」の視点を活かした授業改革や組織運営、指導体制の在り方に関する一考 ～義務教育学校の開校を改革のチャンスと捉えた持続可能な学校づくりを通して～	<p>◎「成果」と●「課題」</p> <p>◎年度当初からの明確、且つ視覚・聴覚に訴える経営ビジョンを意図的、段階的、継続的に示したことで、職員間のイメージ化が促進し、主体性や同僚性が醸成された。特に、次年度の開校を見据えた見方・考え方が焦点化できた。</p> <p>◎ビジョン等の周知を指示的なものでなく、職員個々が考えたアイデアを対話していく姿が顕著となり、分掌をもととした自分事にした建設的・提案型の意見が生まれ、校長として「前・上・先」を見据えたボトムアップからの取組が多く見とれた。</p> <p>◎校内研修の変革への着手も進み、ホリスティックな指導と評価の一体化が推進した。</p> <p>◎研究部・教務部が連携した「カリ・マネ」が、学習指導要領やESDの視点で推進し、全校体制での「(子どもに)育てたい能力・態度」の全体像が共通理解された。</p> <p>◎教育計画や教育課程に対して、踏襲の概念ではなく、「未来や子どもたちにとって持続可能な最適解・納得解は・・・？」という物差しで評価、見直しを図る機会となった。</p> <p>●各分掌や教科等の横断的、系統的な相互の関連付けまで至らずに、システムやマニュアル的な全体への周知徹底まで行き着かなかった。</p> <p>●学校評価や地域関係者等、チーム学校の全ての声を共感的に傾聴しながら、多様な課題については、直ぐにすることはできなかった。今後、スクール・コミュニティの拠点として、「社会に開かれた教育課程」を構築し、運営せねばならない。</p>

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
千葉	旭市立干潟小学校	確かな学力を身につける算数科学習のあり方 ～見通しをもって課題に取り組むことができる児童の育成～	本校では、見通しをもって課題に取り組むことができる児童の育成をめざし、算数科の研究に取り組んできました。主たる研究の柱は、①素材や問題提示の仕方の工夫、②問題を整理する力をつけるための工夫、③数学的な見方・考え方を働かせながら主体的に学習を進める対話活動の工夫の3つの視点とし、日々、授業づくりの充実を図ってきました。児童は、課題を捉え、操作活動や表や図への記述をとおして考えを整理する姿や、ペアやグループでの対話活動で相互に考えを伝え合う姿がより多く見られるようになり、主体的に問題解決に臨んでいます。今後は考えを共有する場面でのICTの有効活用を深めていきます。
千葉	流山市立東小学校	考えを伝え合う児童の育成 ～自分の考えを表現する児童をめざして～	<p>【研究の成果】</p> <p>本研究を通して、学び合いが楽しいと感じている児童が増えた。「友達の考えが聞けるのが楽しい。」「自分と違う考えが聞ける。」といった児童同士の話し合いの機会を持てることに喜びを感じられたからである。自分で考え話す力、聞く力だけでなく、自分の考えを図や式、言葉で表現する力が身についた。話すポイントや話す順序、話す態度、聞く態度まで学習を積み重ねてきたことで、自信をもって自分の考えを表現できるようになった。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>「考えを話すことが好きではない。」「恥ずかしいから。」「何を話していいかわからない。」といった児童が見られた。低位の児童や、一部の児童にとっては、自分の考えを持ったり、表現したりすることが難しい。改善策として、話すこと聞くことのモデルを各教室に掲示し、学習中に活用していく。同じ意見でもどんどん発表させるようにすること、算数の学習に限らず、他教科でも同様に表現する機会を設けていくことが大切だと考えられる。</p>
千葉	富里市立日吉台小学校	豊かな情操を育む取組の一事例 ～「ひよし水族館」を通じた実践～	<p>【研究の成果】</p> <p>これまで使用されていなかったスペースを、「ひよし水族館」として整備したことにより、「生き物が好きになった」「大切にしたいと思うようになった」という児童が増え、生き物に対する興味・関心や慈しみの気持ちを育むことができた。また、この「ひよし水族館」が、理科・図画工作科等の学習を補う場となるとともに、異学年のコミュニケーションの場、憩いの場としても機能した。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>「ひよし水族館」は開設1年目である。どの季節にどのような手入れをすべきであるかに留意しながら、適切な管理を継続していかなければならない。また、全校児童の生き物への興味・関心が継続するよう、児童が主体的に関わる取組を創造していく必要がある。</p>
千葉	いすみ市立大原小学校	自分の考えを進んで表現し学び続ける児童の育成 ～ふきだしを活用し、学習を振り返ることを通して～	<p>成果について</p> <p>ふきだしを自主的に書く児童が多くなった。後期になるにつれて量も増え、内容も情意的な感想から既習内容に触れたり、既習事項からの予想を書いたりすることができるようになってきた。</p> <p>振り返りの視点を与えることで、視点に沿って振り返りを書くことができるようになってきた。既習内容や友達との意見との共通点を書いたり、予想や「もつと～してみたい」という次の学習につながる内容の記述も見られたりするようになっている。</p> <p>課題について</p> <p>ふきだしの内容の個人差が大きい。数学的な見方・考え方に迫る記述を書かせるための指導法を研鑽していく必要がある。</p> <p>振り返りについては、ふきだしを基にした振り返りを書くことができるようにする必要がある。また、視点についても整理し直す必要がある。</p>
千葉	千葉市立稲毛高等学校	設置者(千葉市)との協働による「総合的な探求の時間」の充実について ～持続可能な地域社会を創生するグローバル・リーダーの育成に向けて～	<p>○「総合的な探求の時間」は、各教科で育成された力を駆使し、設定した課題に取り組むことで、知識や技能が思考とともに融合され、生徒を飛躍的に成長させることができる。</p> <p>○生徒の力を効果的に伸ばすためには、主題の設定と教員のかかわり方が重要である。</p> <p>○「総合的な探求の時間」の質を担保するためには、論理的な思考、基本的な統計に関する知識等を効率的に学ぶ教科書が必要である。</p> <p>○「総合的な探求の時間」は、資料を用意したり、外部講師の手配をしたり様々な業務が発生する。専任教員を導入し、専門性を高めていくことが重要である。</p>
東京	狛江市立狛江第三小学校	持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力の育成 ～教科横断的な学習指導の充実を通して～	<p>○ ESDの視点から、それまでの児童に身に付けさせたい力や年間指導計画等を見直し、教師の共通理解のもと授業づくりを進めたことで、授業改善の視点が明確になり、効果的な指導につながった。</p> <p>○ 教師自身の意識の変容が、指導計画や授業中の声かけ・支援に現れ、児童が自ら教科等横断的な学びを進めるきっかけとなることが明らかになった。</p> <p>○ 年間を通して、意図的に構成概念を焦点化した単元指導や児童アンケートを実施したことで、児童自身の「持続可能な社会づくり」への理解が深まったり「創り手」の一員としての自覚が芽生えたりする姿が確認できた。</p>

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
神奈川	川崎市立岡上小学校	小規模校でよりよい学校経営を進めるために必要な視点 ～小規模校の問題・課題把握と解決に向けた校長の一考察～	<p>○職員室に笑い声が戻ってきた。精神的な重圧を多少なりとも緩めることができた。                  ○分掌や役割を整理することで、緩急をつけた仕事ぶりが見られた。                  ○職員室内で、学びを柱にした子供の成果や課題を進んで話せるようになってきた。                  ○学校評価や学校教育推進会議で高評価を頂くことができた。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●職員数に限りがある理由でできにくいことは、本校の自助努力では解決できない。</li> <li>●職務量を標準化することが難しく、総括教諭・教務部に多くを担っていただくこととなった。</li> <li>●異動者数が多いと子供との向き合い方に微妙な歪みが生じる。スタンスを合わせるのに大きな労力を払うことが懸念される。</li> </ul>
神奈川	鎌倉市立第一小学校	考えることを楽しみ、学び続ける子ども ～1年生から6年生までの学びをつなげた算数科の授業づくり～	<p>令和元年度より市の研究指定を受け、「考えることを楽しみ、学び続ける子ども」を主題に、全学年を通して発達段階に応じた学習が組まれている算数科の図形領域を共通の学習場面として、授業中の子どもの「つぶやき」に着目した授業研究を進めてきている。学習に主体的・継続的に関わろうとする「つぶやき(言語の他仕事など、と定義付け)」を引き出すような授業上の教師側の工夫を対象としてきているが、児童のつぶやきのキャッチに労を要するなど、研究は試行錯誤の連続である。指導案には「単元構想シート」を活用し、学年毎の研究授業には、それぞれ先行授業を行った上で取り組んできている。なお、本研究は本年11月に研究発表本番を迎える。</p>
神奈川	二宮町立山西小学校	「主体的・対話的で深い学び」の実現 ～一人も見捨てられない学級集団づくりを通して～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が、人の話を聞く姿勢がとれるようになるとともに、発表への意欲が高まり、躊躇する児童が減ったことで、全員が学習に参加し、話し合い活動ができるようになった。</li> <li>・学級活動で、係決めなどを子どもたちだけで話し合いをして進めるようになるなど、授業以外でも子どもたちが主体的に学校生活を送れるようになった。</li> <li>・支援級の児童にとっては、意見を聞いたり発表したりする機会が増え、交流級と支援級との壁がとれたと感じている。</li> <li>・経験の浅い先生にとっては、やり方があると分かりやすく、児童からの信頼にも繋がった。また、学年が変わっても、教師も児童も安心して学習できると確信している。</li> <li>・これらから分かるように、授業の取組が、よりよい人間関係や学級づくりに波及していると感じる。</li> </ul>
神奈川	綾瀬市立綾瀬小学校	新学習指導要領全面実施を迎えての学校創り ～社会に開かれた教育課程の実現を目指して～	<p>1 研究成果                  教科等横断的な視点で単元のつながりを意識して教育課程の編成に取り組んだことで、カリキュラム・マネジメントの効率性や効果を教師自身が実感でき、意識が高まった。また、児童自身も教科等のつながりを意識して、学んだことを他教科等でも意図的に生かす場面がみられるようになった。生活科や総合的な学習の時間の見直しを図られ、地域リソースを活用した実践へと発展していったことも成果である。</p> <p>2 課題                  毎年、一定の職員の入れ替わりがあるなかで、カリキュラム・マネジメントに対する意識を高め継続的に取り組むことや授業改善の推進をどのように図っていくかは課題であり、今後も積極的な働きかけが必要である。</p>
神奈川	川崎市立稗原小学校	子どもたちが夢をもてる豊かな学校生活を築くための特別活動の実践 ～めあてと振り返りを通してなりたい自分へ～	<p>今回の取組は、従前ながら1年限り・1度限りで終わらせないことを前提としている。コロナ禍ではあるが、「どうすればできるか」を模索しながら、小学校6年間を通して「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の醸成を目指すことを目的とし、子どもたち自身が達成に向け継続して経験できるような計画を立てていくことが大切となる。そして、この取組を価値づけしていく事が持続可能な社会の創り手を育てるために必要な教育の在り方だと考える。子どもたちにとって最も身近な社会である学校という場所において、学校生活全体を通して子どもたちが夢や希望もてる、もちたいと思える豊かな活動の構築を今後も目指していきたい。</p>
神奈川	小田原市立城北中学校	生徒が生き生きと学び合える全員参加の授業づくり ～生徒の主体的・対話的な学びを引き出す活動を通して～	<p>本主題を掲げた背景には、数年前まで授業に前向きに取り組めない一部生徒により校内が落ち着かない状態にあったことがある。「何をすればいいかわからない」「面倒くさい」「やってもむだ」というネガティブな発想から、自己肯定感や学習意欲の低下を招く「負のスパイラル」に陥っていたと考えられる。「受ける授業」から「参加する授業」への転換をきっかけに、このスパイラルを少しずつ脱却しつつある。一方で、学びあいを成立させるためには、他者を尊重する姿勢は欠かせない。その視点で考えると、障がいのあるなしにかかわらず、すべての生徒と一緒に学ぶインクルーシブ教育は重要な意味を持つてくる。そこで、通常学級の生徒と特別支援学級の生徒が自然な交流ができるようになるための機会として、学校行事を活用したい。その具体として東京パラリンピックでも注目された「ボッチャ」は誰もが参加できる競技として注目を集めていることから、本研究助成金でボッチャセットを購入し、今後の校内球技大会、スポーツレクリエーション、他校との交流などに活用し、インクルーシブ教育をベースにした授業展開を目指したい。</p>



都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
神奈川県	横浜市立十日市場中学校	特別支援教育の校内体制の現状とこれからの在り方について ～さらなる充実を目指して～	<p>研究の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育の必要性を職員全体で再認識する中で、教員個々の意識が高まった。</li> <li>・学習支援を通して、生徒に寄り添った指導の基本を確認することができた。</li> <li>・様々なニーズに対応する中で、保護者としての連携や情報の共有が深まった。</li> <li>・職員間の意識が高まり、学校全体として取り組む体制が確立できた。</li> <li>・働き方改革を意識した上での対応を、組織として実現する手掛かりが得られた。</li> <li>・外部機関や関係機関との関わり方を理解したことにより、その連携が深まった。</li> </ul> <p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その場に応じた柔軟な対応を実現するための教員自身の更なる指導力の向上。</li> <li>・中学校3年間の取組ではなく、小学校等と連携した長期スパンでの対応の必要性。</li> <li>・様々なケースやニーズに対応していくための教育支援体制の充実。</li> <li>・個人情報意識の上での関係機関との情報共有のあり方。</li> <li>・働き方改革を意識した上での持続可能な校内体制作りの徹底。</li> </ul>
神奈川県	伊勢原市立中沢中学校	自ら学ぶ意欲を育てるための教育指導の在り方 ～生徒が自らの学習を振り返り、その後の学習に向かうことのできるような 機会の工夫～	<p>本研究は令和2年度から令和4年度までの3年間の継続的な研究として実施しています。 論文を作成したのは令和3年度8月でしたので、研究途中の報告となっています。研究は、生徒アンケートの結果を重視したものでありますが、その時点での生徒アンケートは令和2年度末と令和3年7月に実施した2回分でした。 直近で、令和3年12月に3回目の生徒アンケートを実施したことで、令和3年7月と12月を比較することが出来ました。その結果は、ほぼすべての項目で10～20ポイント上昇しました。教員が代わらないことが、ポイント上昇に寄与したと考えられます。 論文作成時点での比較は、年度が変わったことで担当教員が代わっていました。そのため論文作成にあたっては、教員代わっていない生徒集団の生徒アンケートを基に考察を行いました。 今回の結果と併せて考察すると、同じ教員が継続して指導することで良い教育効果が見られるということが明確になってきました。教員が代わらないことは、生徒が安心して学習出来る重要な要素と考えられます。 さらに、主体的な深い学びの実現のために、生徒の話し合い活動が有効な教育実践となっている今、同じ教員による指導は、生徒が安心して発言できるという点で、効果が高いと考えられます。</p>
新潟県	妙高市立新井小学校	主体的に対話し、高め合う児童の育成	<p>1 成果</p> <p>(1) 主体的な対話を促し、高め合う姿を目指す授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・展開の工夫により成就感をもたせるとともに、友達の考えを学ぶことのよさを実感させることができた。</li> </ul> <p>(2) 安心して話したり聞いたりできる学習集団づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対話の基本を徹底した上で、意図的に場を設定することにより、多様な考えを受け入れようとする学級の土台作りができた。</li> </ul> <p>(3) 声を出す、話すことへの抵抗の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音読・朗読・暗唱などの活動を数多く取り入れたことにより、人前で声を出す、発表するといったことに対する抵抗が軽減された。</li> </ul> <p>2 課題</p> <p>(1) 「振り返り」の時間の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「振り返り」が学びの成果の確認、定着に重要な役割を果たすことを考えると、授業のゴールを意識した「逆算の授業」を構成していくことが大切である。</li> </ul> <p>(2) 読解力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践を通して、学びの基礎ともいべき読解力の弱さが明らかとなった。今後は、学ぶ力の下支えとなる読解力の向上を意識した授業展開が必要である。</li> </ul>
新潟県	三条市立裏館小学校	ふるさとへの思いを高め、地域の発展に貢献しようとする子どもの育成 ～令和の新ツールで学ぶカリキュラムマネジメントの充実～	<p>①同一の地域素材であっても、異なる視点で探究する場合、子どもたちは改めて調査し直し、意欲的に調査するため、活動が活性化する。</p> <p>②「凧」や「傘鉾」、「三条凧ばやし」等、子どもたちが具体物を作成したり、踊りや演奏を披露したりすることで、相手意識が明確になる。また、自分自身がふるさと三条を思う気持ちを言葉にすることで、その気持ちを再認識する場面が増え、ふるさと三条への愛着が強くなった。</p> <p>③子どもの必要感から生じた学習課題を教科学習の中で解決することは、子どもの学習意欲が高まり、効果的な学習が展開される。</p> <p>④ICTの活用は、子どもの発達段階に応じて効果的な活用の在り方が異なる。また、ICTを用いた学習活動であっても、協働的な学習に成り得る。</p>
新潟県	新潟市立葛塚中学校	持続可能なコミュニティづくりの推進 ～共同エージェンシーを高めるコミュニティとの相互関係の構築の実現 ～	<p>本研究は、OECD Learning Compass 2030で掲げられている「共同エージェンシー」に着目し、生徒の「共同エージェンシー」を高める学校のカリキュラムづくりの効果的な方法を検証したものである。具体的には、生徒とコミュニティのつながりの規模を拡大させる「コミュニティ・スクール」のシステムを構築する中で、生徒がコミュニティとのつながりのよさを実感しながら、同じ目標に向かって支え合う関係を築く力である「共同エージェンシー」の高まりを実感できるようにした。</p> <p>研究の成果として、生徒アンケートより、「地域とのつながり(地域項目)」と「かかわり合う力(重点項目)」の関連性を「クロス集計」をかけ、生徒がコミュニティとのつながりのよさを実感しながら、同じ目標に向かって支え合う関係を築く力である「共同エージェンシー」の高まりが示唆された。</p>

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
新潟	新潟市立内野中学校	グループ担任制の導入による学校改革 ～人材育成及び業務改善の視点から～	<p>当校は、「グループ担任制の導入による学校改革～人材育成及び業務改善の視点から～」に3年計画で取り組んでおり、2021年度末で研究2年次を終える。</p> <p>ここまでの成果(○)と課題(●)を以下の通り示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○グループ担任制は、教師力育成に効果がある。特に若手教員には効果が大きい。</li> <li>○グループ担任制は、ミドルリーダーのマネジメント力向上に効果がある。</li> <li>○グループ担任制により、業務の分担・統合・精選を進めることができる。</li> <li>○グループ担任制は、生徒指導場面において、業務量・負担感を減ずる効果がある。</li> <li>○グループ担任制により、「時差出勤」等の活用による業務改善が期待できる。</li> <li>○グループ担任制は、生徒・保護者の「相談チャンネル」を増やすことができる。</li> <li>●グループの担任同士の、綿密で速やかな情報共有が必要不可欠である。</li> <li>●グループリーダーの、グループマネジメントの負担が大きくなりがちである。</li> </ul>
長野	箕輪町立箕輪中学校	「自分で考えて判断する学校」へのアプローチ ～コロナ禍での校長の学校経営ビジョン・学校運営と「自立した生徒」の育ちの姿～	<p>コロナ禍による従前の教育活動が行えない難局に、本校ではまず教職員が主体的・自律的に動くことで、安全と安心を確保しながら、確かな「学び」と豊かな「心」の育ちを推進してきた。</p> <p>本テーマ「自分で考えて判断する学校」へのアプローチとして、『充実』『検討』『推進』をキーワードとして、『自立した生徒』を育む学校カリキュラムの創造に取り組んだ。</p> <p>その結果、研究主任を中心に、職員研修で共通理解を図り、「学び合いのある授業づくり」を進めた。また、教頭を中心に「研修を主とした職員会のあり方」を検討し、学校経営ビジョンとグランドデザインの理解、授業づくりのあり方、生徒指導・生徒理解についての研修を行った。</p> <p>「自分で考え判断する」学校づくりには「学び続ける教師」の存在が不可欠である。今後も「自立した教師」をめざした研修を継続したい。</p>
長野	飯山市立東小学校	自学の力を育む「モジュール漢字の学習」の運営 ～小規模校における漢字の自由進度学習を通して～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が自分の学び方を考え、受け身ではなく自分なりに工夫して主体的に取り組んでいる姿が見られ、本校で願う自学の力が身につけてきているといえる。</li> <li>・LD傾向があり文字を書くことに極端な苦手意識のある児童にとって、多様な学び方の効果を実感できたことで、漢字に対する苦手意識が薄れたことが分かった。</li> <li>・今日まで取組を継続してきたことにより、漢字の定着率も高い状態が続いている。</li> <li>・今後に向けて、個々の学びの姿を教師間で情報交換しながら、児童の実態に応じた適切な支援に繋げていきたい。教師が入れ替わることにより、児童が戸惑いなく自分のペースで気持ちよく進められる環境作りをさらに追究していきたい。</li> </ul>
岐阜	可児市立土田小学校	楽しく通える学校づくりを目指して ～外国籍児童への日本語指導の取り組みを通して～	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国籍児童のための「国際教室」を設置し取り出し指導を行い、児童の実態に合わせた日本語指導の積み重ねによって、日本語を理解する力を伸ばすことができた。</li> <li>○ばら教室KANI(外国から来日した児童が日本のことを約4か月間学ぶ教室)から引き続き日本語指導を行うことにより、外国籍児童が学校に適応し楽しく学校に通っている。</li> <li>○困った時に相談できる先生や場所があること。易しい日本語なら勉強ができて分かる場所があることは、外国籍児童が自己肯定感を高めてことにつながっている。</li> </ul> <p>(課題)</p> <p>▲母国語を話す仲間がいることは安心して学校生活を送れる反面、日本語を覚えなくてはならないという切迫感が薄れ、日本語学習を進める上でも妨げとなっている。</p>
岐阜	瑞浪市立土岐小学校	どの子も「わかる」「できる」授業 ～特別支援教育の理念を基盤として～	<ul style="list-style-type: none"> <li>○算数科におけるユニバーサルデザイン化による個への指導・支援の充実や、生活単元や自立活動における個別の支援計画等を活用した意図的、計画的な指導を行うことで学力の向上や自己充実感の高まりがみられた。</li> <li>○学習活動や授業終末の工夫を行うことで、人と比べてではなく、自分自身の伸びに充実感を得て、「できた」「わかった」を実感することができた。</li> <li>○授業も含めた様々な活動において、指導の工夫をしたり、「交流及び共同学習」による子ども同士のかわりを大切にしたりして、インクルーシブの教育をさらに広げ浸透させていく必要がある。</li> </ul>



都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
静岡	下田市立稲生沢小学校	知的好奇心を育み学びを楽しむ学校経営 ～子育てモデルを具現化する校長の働きかけ～	<p>1. 教材分析 「価値の相関図」をもとに教材に潜む多様な価値を整理し、中心価値の特定と中心価値に迫るアプローチについての研修を深めた。この分析方法により、授業のねらいを明確にした授業構想につなげることができた。</p> <p>2. 授業構想 1時間の授業を構想する上で、「中心発問を核とした発問構成」「児童の価値観をゆさぶる教師の出」「自己理解を深める振り返り」の3つの視点について明らかにし、その具体的手立てを工夫した。これら3点の視点は事後研での授業分析の視点にもなり、効果的な指導への理解にもつながった。</p> <p>3. 授業分析 抽出児を設定し、抽出児の表れを通して上記の3つの視点について検討を行った。児童の具体を共有することで、児童のもつ価値観への理解やそれに伴う指導のあり方について共通理解を図ることができ、その成果が日常的な道徳の授業実践につながっていった。</p>
静岡	浜松市立浜名小学校	読みに課題を抱えている低学年児童と保護者に対する学校体制の支援 ～多層指導モデルMIMとアセスメントMIM-PMを活用して～	<p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校でのMIM実践が2年目だったので、初年度よりもC群(読みに課題を抱えている子)の割合が4月時点で少なかったが、2月では5%未満に減った。</li> <li>・3年生では、A群(37点以上)の児童の割合が30%から55%に増えた。</li> <li>・2年生では、A群(33点以上)の児童の割合が15%から46%に増えた。</li> <li>・MIM-PMの結果を保護者と共有することで、個別の教育相談につなげることができた事例があった。</li> <li>・昨年度、コロナ禍で十分に実施できなかった1年生のアセスメントが年間4回実施できて、今後の参考となるデータが得られた。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親子合同学習会の参加者が昨年度よりも少なく、学習会の持ち方について再検討する必要があると感じた。</li> <li>・個別の支援・指導に当たる2nd、3rdステージの指導をどのように実施していくかが課題である。</li> </ul>
静岡	引佐北部小中学校	心豊かにたくましく生きる児童・生徒の育成 ～特別の教育課程「ふるさと科」「国際コミュニケーション科」を二本柱に～	<p>●主要な研究成果 平成24年4月に、施設一体型小中一貫校として開校した本校では、学校や地域の実態に照らしてより効果的な教育を実施するため、教育課程特例校として学校独自に「ふるさと科」と「国際コミュニケーション科」を設定している。この2つの科が、子供たちのより深い学びになるための研究を行っており、京都教育大学附属京都小中学校と大阪教育大学附属平野小学校の研究発表会に2名の教員が参加し、示唆を得ることができた。そして令和4年度の教育課程編成に具体的に反映させ、「ふるさと科」と「国際コミュニケーション科」をリニューアルすることができた。また書籍を参考にして、英語科教員だけに頼ってきた「国際コミュニケーション科」学習内容の異文化理解や他者理解は、学級担任が行うように計画することができた。</p>
静岡	浜松市立三方原小学校	教育活動の核に位置付けた意図的計画的なキャリア教育の実践 ～教科等の学習におけるキャリア教育の在り方～	<p>○キャリア教育年間指導計画に位置付けられていない各教科等の特質に応じたキャリア教育(キャリアBの学習)を、意図的・計画的に実践するためには、教師がキャリア教育の必要性を深く理解し、常日頃からキャリア教育の視点をもって教材研究に取り組み積極的に実践することが必要であることが明らかになった。</p> <p>○令和3年度全国学力・学習状況調査児童質問紙にある「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」の質問に対し、「当てはまる」と回答した本校の子供の割合が、国語科が79.4%(全国65.2%)、算数科が85.3%(全国72.8%)と、全国の割合を大きく上回った。</p>
静岡	静岡市立松野小学校	地域を愛する松野っ子を育てるために ～コロナ禍でできる地域連携を模索して・・・～	<p>1 研究の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山間地小規模の本校では、地域と学校がいっしょになって進める教育活動が特徴的である。コロナウイルス感染症の世界的な蔓延による影響を受ける中で、諸行事の中止等が相次ぎ、学校と地域の連携が困難な状況にある中、今できることを模索する中で以下のような事業を実施することができた。</li> <li>・6年生による地域の活性化のためのプランの策定と発表(2/3予定)、学校周辺のライトアップ、学校林の活用による椅子やベンチの制作と地域への設置、地域と学校を元気にするTシャツづくり、学区を象徴するデザインで横断幕を作成設置(3月予定)、地域の生涯学習の拠点としての漢字検定公開試験会場設定、学校図書館の開放、登下校の安全に関わるボランティアが着用するビブスの制作頒布、6年生対象のキャリア講話への地元卒業生の招聘など。</li> <li>・いろいろなことが制限される中でも地域と学校が連携してできることがある。歩みを止めないことの大切さを地域の方々の声から静かに感じることができた。コロナ禍でもやれること、できることを工夫して前へ進むことができる、地域の中で少しずつそんなことが見えてきたと思う。</li> </ul> <p>2 研究の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域とともに計画していたことが途中でできなくなるコロナ禍の連携の難しさ。</li> <li>・人口減少の一途をたどる松野学区において、学校と地域の連携の工夫することで、どんな状況であっても地域を愛する子を育てていくことが大きな課題であり大切なことである。</li> </ul>

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
静岡	静岡市立長田西小学校	新型コロナウイルス感染拡大期にも子供の学習権を保障する学校経営の在り方	新型コロナウイルス感染拡大期にも子供の学習権を保障することについて実践を重ねた結果、今年度の教育活動において、学校が主因とされる濃厚接触者を出すことはなかった。各取り組みが有機的に機能した成果と考える。今後も感染状況は刻々と変わっていくことが予想される。状況を見ながら、どうしたら子供の学習権を保障することができるのか、何ならできののかを常に考え続ける必要がある。それを絶え間なくやり続けていくことが、最大の感染防止対策であり、子供の学習権を保障することにつながると感じている。
愛知	大治町立大治小学校	自他を認め、生き生きと学び続ける児童の育成 ～ICT機器を効果的に活用した実践を通して～	本校では、自己を受容し他者を認める心という土台なしでは、ICT機器を効果的に活用した授業はできないと考え、本研究に取り組んだ。その結果、心の天気アプリの活用や振り返りの工夫・認め合う場の工夫等を通して、自己を受容する力や他者のよさを受容する心を育むことができた。そして、一人一人に課題意識をもたせる上で有効なタブレットと大型モニターなどのICT機器を効果的に組み合わせた授業を通して、自他の考えを伝え合う力を育成することができた。今後は、児童の課題に応じた「個別最適な学び」のあり方や、より深い「協働的な学び」のあり方を追究していきたい。
愛知	岩倉市立岩倉東小学校	世界にはばたく東っこ ～自己を知り、自己を生かす活動を通して～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふりかえる」場の設定をすることで、友達と比較するのではなく過去の自分と比較することができるようになったり、自分の成長を実感し、自分を好きになったりすることができる児童が増加した。</li> <li>・「自己を知り、自己を生かす活動を」を展開することで、自分の好きなことに気付いたり、自分を好きになったりする児童が8割以上となった。自分の好きなことを実践する経験により、自分の苦手なことにもチャレンジしようとする気持ちを高めることができた。</li> <li>・「つかむ」「つなぐ」「ふりかえる」の3つの段階を意識して授業を展開することで、児童の学習意欲の向上が見られた。</li> <li>・今後も継続して取り組み有効な手立てを累積したり、児童一人一人の困り感に寄り添ったりしていきたい。</li> </ul>
愛知	新城市立黄柳川小学校	一つの考え方よりも二つの考え方のできる子どもの育成 ～「考える」、「議論する」を大切にしている道徳教育の実践～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「二つの考え方」を追求する展開やねらいに則した効果的な「問い返し」により、当たり前前の価値理解で終わらず、他者理解や人間理解、そして自己理解にまで子どもたちの考えを深める授業を実践できた。</li> <li>・異学年合同授業により、単学年だけでは出ない多様な意見が出たり、発達段階の違いによる考えの相違が現れたりして、活発な議論を生み出すことができた。</li> <li>・役割演技による共感、3色カップや心情線による思考の見える化、ペア・グループトーク、指示棒リレーといった発表方法の工夫により、子どもの活発な動きのある授業を展開できた。</li> <li>・授業づくりアイデアシートとブレインライティングによる指導案検討や研究構想図を基にした授業スタイルの構築により、ねらいを大切に授業展開を考えることができた。</li> </ul>
愛知	犬山市立犬山中学校	自ら考え、判断し、決定し、行動する生徒の育成 ～生徒の考え、変容を大切にしている授業改善を通して～	<p>1 成果</p> <p>【生徒へのインタビューから】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 4限授業後、3年生に突然インタビューをした。生徒のこの言葉が研究の成果そのものである。</li> <li>T:「この3年間で、授業は変わったかな？」</li> <li>A:「とても変わったと思う。先生が話す時間が短くなり、僕たちが話し合ったり、考えたりする時間が増えた。学習する内容は難しくなったけれど、授業は楽しくなった。」</li> <li>T:「授業に取り組むことで変わったことってある？」</li> <li>B:「自分たちの意見を出し合ったり考えたりすることが増えたので、自分たちで学ぶことができるようにと考え、積極的に取り組むようになった。」</li> </ul> <p>2 今後へ向けての課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 取組の継続・発展→ 毎年自主研究発表会を実施</li> <li>○ 授業づくりをベースにした多様な教育活動の展開→各教科から教育活動への展開</li> <li>○ これからの学校像の共有と発信</li> </ul>

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
愛知	岡崎市立新香山中学校	他社と関わりながら主体的な学びを深め未来を切り拓く生徒の育成 ～関わり・つながり・広がり重視したESDの展開～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者との関わり方においてタブレット端末と無線LAN環境を利用した情報共有の仕方を専門講師から研修し、授業に取り入れる実践を行うことができた。</li> <li>・環境学習の中で、節電に取り組み、電気(電池)の消費についての実験を通して、電力の消費の状況やそれに対する温度上昇などを生徒が実体験することができた。</li> <li>・空気中の二酸化炭素を吸収するためには、緑化の推進が必要であることや樹木も樹齢によって二酸化炭素の吸収量が変化することを学ぶことができた。</li> <li>・新型コロナの影響で、授業講師を招聘できなかったときに、パソコンとWEBカメラを利用したテレビ会議により、授業中に助言をもらうことができた。</li> </ul>
愛知	名古屋市立若宮商業高等学校	学校と社会資源の協働 ～校内居場所支援「若宮カフェ」の取り組み～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒にとって安心安全な居場所を提供することで、同学年との新しい交友関係の構築や異学年との交流が促進された。</li> <li>・親でも教員でもない大人(NPO職員)が、雑談を通じて生徒と信頼関係を深め、相談活動を行うことで、生徒にとって気楽に相談できる機会を作り出すことができた。</li> <li>・若宮カフェ終了後の片付けなどを自主的に手伝える生徒が増えた。カフェを利用する生徒の中で自己有用感が育まれていることを実感した。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒、教員から回数を増やしてほしいという声があがっている。コロナ禍で生徒の心身面への悪影響や学校の多忙化が進んでいる。より一層の財源や人員の確保が必要である。</li> </ul>
兵庫	兵庫県立阪神昆陽高等学校	数学が苦手な生徒におもしろさを伝える学校設定科目「数学探求」	今年度、「数学探求」は開講して2年を迎えた。在籍する数学科教員のほとんどがこの科目の授業を実施し、課題がはっきりしてきた。まずは評価の方法についてである。毎回のレポートの評価については、担当教員同士で話し合い、基準をつくり評価している。開講3年目となる令和4年度には、レポートの評価として、公平性、妥当性を向上させるためのルーブリック評価を取り入れる予定である。生徒には、どのようにレポートを作成すればよいのか丁寧に説明し、レポートの内容による評価の差を理解させたい。また、将来的には生徒が自らテーマを設定して研究を行い、発表を行うという探求活動にも挑戦したいと考えている。
兵庫	神戸市立室内小学校	室内小学校金管バンド活動の推進 ～継承の中で養われる表現活動を生きる力に～	<p>【研究の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・このコロナ禍の中、校外へ向けことごとく発表する場が失われた。しかしながら、教師が知恵を出し合い、新しいゴール地点である地域の方々へ向けての発表の場を生み出すことができた。「夢の音楽祭(兵庫県立夢野台高校、神戸市立丸山中学校、本校、神戸市立西野幼稚園:教育実践関係校)」残念なことにコロナウイルス感染症対策のため中止せざるを得なくなったが、来年の開催に期待したい。</li> <li>・2022全国小学校管楽器合奏フェスティバルに映像出演し、優秀賞並びにヤマハ賞を受賞する。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍2年目。指導者だけでなく全職員が高い意識をもちこの継承活動の新たな可能性を見出していく必要がある。</li> </ul>
奈良	奈良県立橿原高等学校	生徒の主体的な読書活動を推進するための取組 ～「読まされる」から「読みたくなる」ための環境づくりへの挑戦～	図書館は、様々なジャンルの旬なテーマについてビジュアルでわかりやすいものを中心に、ふだん入手困難な本を選書した。受け入れた本は、毎月発行の広報誌「橿高図書館ニュース」で生徒に紹介している。また、書店クラブで実施した書店でのアンケートを基に、地域の方が勧めてくださった本や部員が読みたいと思う本を購入し、部員の読書の幅を広げることができた。それらの本は図書室のコーナーに並べ、他の生徒も読めるようにした。図書館蔵書の充実により、どのジャンルであっても読者に間接的な体験を与え、それは思考や表現の変容をもたらし、本を楽しみ、本から学ぶ姿勢を確立させることができた。また、SSR(読書タイム)の取組のうち週に1回「洋書の読書」に当てて取り組んでいるER(英語多読)において、易しく薄い絵本を一定数読むことでの「洋書の読書」や英語学習へのハードルを下げたり、洋書コーナー「橿高ER文庫」にある難易度のやや高い本に挑戦したりすることで、洋書への興味・関心をたかめ、本校の英語学習や国際教育の発展に繋げることができた。また、ERをきっかけにESS(英会話)部への入部生徒が増加している。
奈良	奈良市立二名中学校	夢の実現に向けて、自らの生き方を選択する力を育む進路指導 ～学校・地域の連携と協働によるキャリア教育の充実～	教員・生徒・保護者や地域の3つの力と願いが一致し、コロナ禍の状況下でできることを探すのではなく、「やりたいことを実現する」を考の基準として進めた。生き方を考える進路指導で学級集団作りを基盤とし、学年・全校集団作りを意図的・計画的に取り組んだ。教員だけでなく、保護者や地域住民等多くの大人も関わることで、いろんな価値観や自己有用感を感じ取らせることができた。現在生徒達は、勉強熱心で素直な生徒、挨拶ができる生徒、部活動や文化的な活動に熱心に取組む生徒に多くが育っている。そして希望する進路を実現し巣立っていった。ただ、家庭では大切に育てられた生徒が多く、困難に立ち向かう力が弱い生徒や、不登校傾向にある生徒もいる。その生徒達にどんなアプローチができて、生き方を見つける「進路指導」をしていけるのか、大きな課題である。もう一つは、教員がより変化の激しい時代に対応でき、新しい取組み等に尻込みすることなく立ち向かっていけるかである。



都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
鳥取	米子市立淀江中学校	自らの考えを持ち、つながりあい、高めあう生徒の育成を目指して～確かな自軸の育成を図るための一考察～	<p>《成果(生徒の変容)》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力学習状況調査における質問紙等各種アンケートに現れた生徒の自尊感情の高まり。</li> <li>・生徒会目標「いじめ、からかい、悪口のない安心安全な学校づくり」への積極的な参加によるいじめ事案の激減。</li> <li>・自らの活動をカリキュラムマネジメントするための話し合い活動を部活動に導入したことによる部活動の活性化。</li> </ul> <p>《成果(教職員の変容)》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に対して支援的に接することのできる教師の増加。</li> <li>・生徒のアセスメントスキル、教育相談スキルの向上。</li> <li>・教職員間でのOJTの活性化。</li> </ul> <p>《課題》</p> <p>本研究で生徒の自軸を強化することが、学力向上にもつながるといふ仮説のもとに研究を進めてきた。しかしながら、まだまだ学力向上に結びついていないのが現状である。今後、さらに授業改善、授業と家庭学習の一体化などの取組を行っていく必要がある。</p>
広島	広島市立宇品小学校	教科担任制を中心とした教員の資質向上とチーム学校の構築～「働きがい」のある学校を目指して～	<p>○教員は、担当教科や担当時間が減少し、時間的なゆとりをもって業務を進めることができるため、よりよい授業づくりでなく、学級事務を計画的に進めることができるようになってきている。また、ペア学級の教科指導に入ること、多くのことに気付き自身の学びにつながっている。</p> <p>○児童は、充実した学習指導を受けることができ、学習への意欲を高めている。また、多くの教員と接することができ、児童の学習状況や人間関係などの情報が共有され、多面的な児童理解が進んでいる。</p> <p>○働き方の改革は、教科担任制の実施だけで進むものではないが、さらに仕事の効率化を図り、勤務時間外の在校時間を減らすよう努力する必要がある。</p>
山口	防府市立勝間小学校	学ぶ喜びを実感できる授業づくり～国語科説明文の指導を通して～	<p>全校体制で行った三つの取組について、成果と課題を述べる。一つ目の説明文アイテムを活用することで、段落番号をつけたり問いと答えを見つけたりするなど、説明文の読み方に慣れてくる子供たちの様子がうかがえた。また二つ目のプレ学習によって、既習教材と本教材の相違点や共通点に児童自身が気付き、学びを深めることができた。三つ目の一人学びガイドの作成により、教職員がいつも使えるシステムとして定着した。本年度は「書く力」に重点を当てて研修を進め、説明文の学びを生かすことができた。その中で、要約等の条件付きの記述問題に対してまだ苦手意識を持つ子どもが多い。三つの取組を生かして書く力を楽しく身に付けさせたいと考える。</p>
福岡	みやこ町立豊津小学校	論理的に思考する力を育成するカリキュラム・マネジメントの在り方	<p>(1) 視点1 □</p> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科横断的に重点単元を設定し、「思考モデル」を活用し、根拠を基に理由付けしながら考えを述べるできるようになった。</li> <li>○「評価のものさし」を開発したことで、児童は学びのゴール像を把握し意識しながら意欲的に学習に取り組むようになった。</li> <li>○「評価のものさし」が、振り返りの自己評価をする際の指針となり、授業の導入と終末が有機的につながるようになった。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●日常の中で、思考モデルを用いる場を教科横断的に仕組んでいく必要がある。</li> <li>●自己の学びをより客観的に評価できるように、終末の工夫を行いたい。</li> </ul> <p>(2) 視点2</p> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全職員が研究部会のいずれかに所属し、授業改善のPDCAサイクルの一翼を担うことで、各部会の機能化が促進し、全職員が当事者意識を持って主体的にマネジメントに関わるようになった。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●より組織的に推進するには、各部会の主軸となるミドルリーダーの育成が重要である。</li> </ul>

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
長崎	対馬市立大船越中学校	愛するふるさとの将来を見据えるキャリア教育の推進 ～職場体験学習・起業体験学習を通して～	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科等横断的な授業の取組の充実</li> <li>・表現力の向上のともなう広報活動(チラシ配り:初対面の方への積極的な声掛け)の充実</li> <li>・地域に貢献したいという心情や態度の育成</li> <li>・各学年の取扱商品数の増加</li> </ul> <p>3年:製造1 卸販売1 2年:製造3 卸販売1 1年:卸販売3</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化が進む地域だからこそできる起業体験学習の研究(地域高齢者との連携)</li> <li>・開かれた教育課程を実現するための地域・社会との関係性の構築(地元企業・販売店・福祉施設との連携 等)</li> <li>・生徒主導での株主への返礼品及び地域への貢献活動の企画運営</li> <li>・生徒主導での卸販売商品の発掘及び選定、企業交渉</li> <li>・生徒主導の開催時期及び場所の選定</li> </ul>
長崎	長崎市立深堀中学校	学校図書館の有効活用を目指して ～学校図書館の学習センター、情報センター、読書センターとしての活用を通して～	<p>取組を本格的に始めた平成29年度は、貸出冊数が平均30.4冊であり、貸出以外(学級貸出、授業利用の資料提供など)も多く含まれ、貸出状況も「多読」と「不読」の生徒の差が懸念されていた。この5年間の取組の成果としては、多くの図書イベントに子どもたちが積極的に取り組むことで、本への興味や読書意欲をより高めることができたことである。例えば、「本の総選挙」も全校参加型である。「本の福袋」、表彰や景品がある「多読賞」には、子どもたちは意欲的に取り組んだ。選書については、文部科学省が示した蔵書の配分比率を踏まえながら、2類(地理・歴史)・4類(自然科学)の購入を多めにした。さらに、多様性を重視した蔵書構成を目指しており、国際社会や人権に関する資料、点字図書、SDGsの取組に関する図書等の購入を進めた。</p> <p>このような実践を通して、貸出平均冊数も年度を追うごとに着実に伸び、今年度は、平均貸出冊数平均53.9冊と近年最も多かった。学年別でみると図書室に近い1年生の利用が多かった。ただ、年間12冊未満の不読差率は、減少させることができなかった。また、文学作品よりライトノベル小説などを好む傾向にあり読書の質の低下が懸念される。</p> <p>今後も、学校教育目標の実現に向けて、「学校図書館」を確かな学力の育成の場、探究的な学習の充実を支える場、豊かな人間性の育む場として活用していく。また、主題にある「学校図書館の有効活用」、副主題「学校図書館の学習センター、情報センター、読書センターとしての活用」を目指して、今まで実践してきた取組を図書館担当職員や学校図書館司書を中心にしながら、全職員で推進していきたい。</p>
長崎	南島原市立野田小学校	学校経営におけるナレッジマネジメントの一試み ～持続可能な教育改革と人材育成を進めるための基盤づくり～	<p>&lt;主要な研究成果&gt;</p> <p>本研究により改善されたことは、以下の7項目が挙げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)経営ビジョンの浸透</li> <li>(2)教職員研修を、受動的なものから能動的なものへ</li> <li>(3)校内に知識を交換する場の設置</li> <li>(4)新しい授業の在り方を問う授業研究の実施</li> <li>(5)ミドルリーダーの育成</li> <li>(6)知識ベースとしての「教育計画」の作成</li> <li>(7)児童による授業評価の推進</li> </ol> <p>以上の改善により、日々生じる課題を「フロネシス」(時宜にかなった賢明な判断を下させるとともに、価値観や原則、モラルに即した行動をとることを可能にする経験的な知識)を得る機会と捉え、この経験を継続して積み重ねることが、「知恵を育もうとする取組が絶え間なく続けられる組織」へとつながることを理解できたことが本研究の成果である。</p>
長崎	長崎県立大村工業高等学校	「eスポーツ」を通じた新しい教育活動の可能性とその展望等について ～大村工業高校eスポーツプロジェクト～	<p>現在、プロジェクト2年目を終えようとしている。コロナ禍で活動に制限がかかった時期もあったが、年次目標に基づいた継続的な活動を実施することができた。また、各種大会に参加し、優勝ならびに上位入賞を収め、最終年次の目標である「日本一」に向けた土台作りができています。地域イベントへの参加、校内イベントの企画・運営をするなど、eスポーツの普及活動にも貢献することができた。</p> <p>～主な大会結果～</p> <p>全国都道府県対抗eスポーツ選手権2021MIE</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・eFootballウイニングイレブン部門 高校生の部 長崎県大会優勝 九州ブロック大会2位</li> <li>・ぶよぶよ部門 一般の部 長崎県大会優勝</li> <li>・グランツーリスモSPORT部門 少年の部 3位・4位</li> </ul>

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
熊本	苓北町立富岡小学校	子供の学力を伸ばす「働き方改革」の取組 ～通常業務と研究発表会スタイルに関する働き方改革を経営の中心に据えた1年間の実践～	<p>研究実践の成果</p> <p>1 指導の在り方に関する職員の意識が変容している(図10)。 教師の指導のための意識が向上したことが分かる。</p> <p>2 熊本県学力調査における学力が熊本県平均以上になるとともに学びに向かう力が向上している(図11)。 働き方改革によって、子供への指導も柔軟にできるようになったと考える。</p> <p>3 ICTを活用した教育DXにより働き方改革の姿が表れている(図12)。 平均して45時間の枠に収まっている。特に、11月から2月にかけての残業時間に成果が現れていると考える。</p> <p>4 学力充実の研究発表会を機能的に実施することができる(図10・12)。 遅くまで残業することもなく、通常の職務の中で準備をすることができている。</p>
熊本	玉名市立滑石小学校	学校経営ビジョンの具現化に向けた活力ある学校組織マネジメントの工夫 ～「わくわくドキドキ 笑顔いっぱい」新任校長2年目の取組～	<p>【研究の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童に身に付けさせたい資質・能力及び学校経営ビジョン(グランドデザイン)を全職員で話し合い、明確にし、共有していくことで、本校教育目標の実現を目指すことができた。チームとして組織的、計画的、協働的に推進していくことができた。</li> <li>資質・能力については、児童、保護者、地域と連携し共有することで、育成の実現に向かうことができた。</li> <li>教育課題への対応や教育活動の質的向上のために、職員の長所を生かした分掌やPJチームの組織づくりをすることで、学校の組織力・教育力の向上につながった。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会や地域人材を活用し、地域の教育力を取り入れ、地域とともにある学校づくりを更に目指していきたい。</li> </ul>
宮崎	都城市立川東小学校	小学校高学年における学習指導と生徒指導の充実を目指して ～小学校高学年における教科担任制の取組を通して～	<p>本校では、「学力向上及び学習指導の充実」「生徒指導の充実」「中学校への円滑な接続」「教員の働き方改革」等の効果を期待し、一部教科担任制に取り組んできた。具体的には、指導体制の工夫(社会・算数・理科・外国語が専科、図画工作・家庭・音楽の交換授業)、時間割編成の工夫(基本時間割、作成ソフトの活用)、高学年部会の定例化(隔週火曜日、学習習慣の共通理解、生徒指導・特別支援教育の情報共有等)、保護者及び地域への周知・授業公開等を行ってきた。それにより学力の平均化、登校渋り児童へのチームでの対応、時間外業務時間の減少など成果をあげることができた。今後も更に工夫改善を行い、一部教科担任制を推進していく。</p>
鹿児島	出水市立米ノ津東小学校	自己の学びを自覚し、その学びを継続できる子供を育成する授業の創造 ～「学びの構造化」を通して～	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学力の向上が図られており、特に本校の課題でもあった「思考・表現」で顕著な伸びが見られている。</li> <li>○タブレットパソコンを活用した授業改善が図られるようになり、研究テーマにより深く迫ることができるようになった。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▲「学びの構造化」を支える教材研究の在り方にまだ研究の余地があり、各教科部等を機能させて組織的に研究を深めていきたい。</li> </ul>
鹿児島	霧島市立国分小学校	持続可能な社会の担い手を育む総合的な学習の時間の創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師自身が探究的な学習のわくわく感を覚え、「探究的な学習がどういふものかやっと分かった。」と発するなど、総合的な学習の本質に迫ることができた。</li> <li>・地域や関係機関の方々を人材として迎え入れて活用するだけでなく、社会の一員として自分から発信していくことの大切さを学ぶことができた。</li> <li>・子供たちの新鮮な気付きや課題意識が、学びの過程をより深めることにつながった。教師側の意向だけに沿っていけば生まれなかったらと思う情報があり、子供が主体的に取り組む学習であることの大事を再認識できた。</li> <li>・一人一人が身に付けた資質・能力を適切に生かし、その力を汎用的な力として自分のものにしていけるよう各教科等との関わりを明確にしていきたい。</li> </ul>
鹿児島	宇検村立久志小中学校	みつめよう つなげよう みんなの心と言葉 ～児童生徒が自分らしく生きるための人権教育～	<p>【研究の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や学習活動、その前後において、考えを言葉にする実践を行うことで、思考・判断・表現する学習活動ができるようになってきた。</li> <li>・教師が板書や発問を工夫することで、質問力が向上し、物事を多面的・多角的に捉えられるようになってきた。</li> <li>・人的・物的環境を整えることで、一人一人の人権を大切にしようとする雰囲気を醸成することができた。</li> </ul> <p>【研究の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思考・判断・表現するための「考えを言葉に＝言語化する」という取組は、自分の考えをもつための「意欲」をもつことから始まる。「意欲」をもたせるための工夫を継続したい。</li> </ul>



都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
鹿児島	知名町立田皆中学校	学んだことを、自らの考えで表現できる生徒の育成 ～一人一人の言語活動の充実を目指して～	<p>1 研究 I</p> <p>○ 思考・表現を問う問題の正答率は下記の表のようになり、特に国語で10.5%では上昇したが、数学では16.2%減少した。</p> <p>年度 学年 国語 割合 数学 理科 英語</p> <p>R2年度 由16.4. 9% 56. 3% 64. 2% 63. 4% 62. 9%</p> <p>由263. 3% 60. 3% 61. 4% 65. 0% 58. 8%</p> <p>R3年度 由173. 3% 79. 3% 53. 8% 77. 5% 75. 8%</p> <p>由273. 8% 57. 6% 48. 6% 65. 2% 64. 1%</p> <p>○ 引き続き、各教科の活動に関わらず、いろいろな場面で自分の考えをまとめたり、表現したりする機会を設けている。そのため、昨年度と比較すると低くなっているものもあるが、概ねやりがいを感じる生徒が多い。鹿児島学習定着度調査の生徒質問紙の結果は下記の通りである。</p> <p>内 容 調査日 非常にやりがいを感じる ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿</p> <p>自分たちが考えたり話し合ったりする授業 R1. 150% 46% 41% 0%</p> <p>R2. 157% 43% 0% 0%</p> <p>R3. 143% 50% 2% 0%</p> <p>内 容 調査日 非常にやりがいを感じる ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿</p> <p>自分たちが発表したり、友達の発表を聞いたりする授業 R1. 137% 53% 7% 0%</p> <p>R2. 143% 49% 8% 0%</p> <p>R3. 126% 62% 12% 0%</p> <p>2, 研究 II</p> <p>○ タブレットの使用に際し、各教室に整備されているモニターにクロームキャストを接続しておくことで、電子黒板の数の不足に対する課題を解消することができた。</p>
鹿児島	鹿屋市立西原小学校	自己を見つめ、他者のよさに気づき、互いに認め励まし合う子どもの育成 ～自己肯定感を高める取組を通して～	<p>1 研究の成果</p> <p>○ どんな場面においても、自己を見つめ、他者のよさに気づき、互いに認め励まし合う子どもの育成を意識することで、いい結果に繋がると感じた。</p> <p>○ キラリカードは、有効であったこと。(友達の良さを見つけることへ喜びを感じたり、貰って喜びを感じたりしている。)</p> <p>○ 家庭と連携して子どもたち一人一人に寄り添いながら指導することで、自己肯定感の向上に繋がった。</p> <p>2 研究の課題</p> <p>○ 自己肯定感が低い子供たちが多く、様々な悩みを抱える子供たちが多くことも本校の課題であるので、今後も子供たちの自己肯定感を高めるための取組は続けていく必要がある。</p> <p>○ 家庭に課題がある場合が多いので、そのような家庭へのアプローチの仕方。</p> <p>○ できた子、褒められた子に対してネガティブな発言をする児童がいる。</p>
鹿児島	鹿児島市立吉田南中学校	未来の創り手に必要な資質・能力を育成する学習指導 ～生徒自らのエージェントとなる授業デザイン～	<p>生徒のエージェンシーを育むための授業デザインに関する今年度の研究により、以下のような成果をあげることができたと考えている。</p> <p>・職員研修の体制が整い、職員研修が充実した。リフレクションシートを利用した授業の組み立てと生徒の成果を見取るスタイルは、本校の授業の基本となりつつある。</p> <p>・生徒が新しい「自律性」を自分事として捉え、その姿に近づこうとする姿がまさに、「学びに向かう力」が備わった主体的な姿であり、同時に対話的で深い学びにもつながったと思われる。</p> <p>課題としては、解決に至るまでの学習過程を、見通しをもって計画的に進める力や、既習事項の利用や多面的・多角的な考え方から新しいアイデアや工夫を創造する力などを育むための授業デザインがまだ研究として不十分であるという点である。</p>

都道府県	学校名・団体	研究主題	主要な研究成果
神奈川県	神奈川県公立中学校教育研究会	生きる力を育む教育課程の研究	丁寧知識を習得させることで、生徒はその知識をもとに比較的スムーズに活動することができるようになった。その効果は、体育が不得手な生徒ほど顕著であった。また、活動を通して生徒は具体的な課題を発見したり、得た知識を活用して仲間へのアドバイスをしたりしていた。そのように授業が活性化したことで、生徒の学習への意欲も向上し、技術の向上へもつながった。さらに、タブレット端末等のICT機器を活用することで、生徒自身や仲間の課題がより明確となり、アドバイスも具体的になった。今後は、運動が苦手な生徒でも「できた」「わかった」という体験を増やし、自信をもってアドバイスできるようにしてほしい。
新潟	ECHO会	新学習指導要領の趣旨を実現する英語教育の在り方 ～小中連携、小中接続を意識して～	探究的実践(Exploratory Practice)により授業改善に取り組むことで、英語科における「主体的・対話的で深い学び」がどのようなものか、児童生徒がどのような言語活動に取り組めばよいか、などについて会員同士で共通理解を図ることができた。また、今後の共通課題や授業改善の視点を次の3点にまとめた。 ・小学校における多くの活動で使用した語彙や表現、文字の認識や語順の違いへの気づきを、いかに中学校における言語活動で繰り返し活用して確実に定着させるかが課題である。 ・中学校では小学校で学んだ内容を十分に生かし、身近な事柄についてコミュニケーションを図ることができるように指導し、生徒の英語運用能力を高める。 ・中学校では、小学校で使用した語彙や表現などを、意味のある文脈の中でコミュニケーションを通して繰り返し触れることができるよう、様々な言語活動を工夫する。
新潟	五泉市若手研究会	「教師力」「授業力」「人間力」の向上を目指して ～「主体的な学びを引き出す課題設定の工夫」とオンライン研修を通して～	○成果 ・学級には多様な子どもたちがいて、すべての子どもたちと良好な関係性を構築し、信頼関係を気づくことが大切である。そのためのコミュニケーションの取り方として、「回数」を意識することや子どもたちの気持ちを「聴く」ことなどが大事であることを学んだ。 ・NITSの動画視聴を実施したことで、日々の子どもたちとのかかわり方について学び、すぐ実践することができる内容がたくさんあった。 ▲課題 ・現在の社会情勢や自分自身の状況を踏まえた上で、どんな研修をしたいか考えたり、自分自身の授業力向上のために進んで授業者に立候補したりなど、より会員が中心になって研修を進められるようにしていくことが課題である。
新潟	加茂市南蒲地区中学校教育研究会理科部	知識をつなぎ、思考・表現を深める生徒の育成 ～「既習事項の活用」を通して～	【研究の成果と課題】 既習事項の活用を促すため、「1. 単元構成の工夫」「2. 知識をつなぐためのポートフォリオの工夫」「3. 科学的根拠をわかりやすく伝えるために、ホワイトボードモデルの活用」の3つの手立てを設定し、授業を通して検証を進めた。 1 成果 ・単元構成を変更したことにより、生徒が動物での既習事項を活用し、根拠を持って学習に取り組むことができた。 ・ICTとホワイトボード、ポートフォリオを活用したことで、生徒が学習した内容を振り返りながら意見を交換し、考えを深めることができた。 2 課題 ・ICTの活用場面において、生徒が思考を深める場面よりも発表などの場面での活用に重点をおく方法も考えられた。今後も、場面ごとにどうICTやホワイトボードを使い分けていくかの検討が必要だと感じた。
新潟	村上市岩船郡中学校教育研究会総合的な学習指導部	生徒の主体性を育み、見方・考え方に着目した授業の創造 ～SDGsを視点に持続可能でレジリエントな社会づくりを考える学習の実践～	○本学習は、総合的な学習の枠を超えて実社会と繋がる自律的な学習の動機付けになった。自ら問いを立てて学習する姿も見られ、探究の基礎を築くことができたと言える。 ○「自分は将来どうなりたいか」「何を大切に生きていきたいか」を考える機会になり、生徒のキャリア形成にも資する学習となった。 ○生徒のレポートや振り返りの記述には、システム思考、批判的思考、総合的問題解決など、8つの「持続可能性キーコンピテンシー」に重なるところが多くあり、本学習はその資質能力を高めるものとなったと言える。 ○今後の課題は、このSDGsを視点とした探究学習をいかにスパイラルに継続し、生徒が自走する学びや体験に繋げていくか、ということである。

都道府県	学校名・団体	研究主題	主要な研究成果
愛知	愛知県西春日井地区小中学校教務主任会	相互に関連性をもたせる3観点評価の実現を目指して～小中の評価の実態・課題の把握を通して～	<p>「主要な研究成果」                      「3観点評価」が完全実施された令和3年度において、地区内すべての小中学校で、共通理解に基づく適切な評価ができるようにしていくことをねらいとした。                      小中学校(小学校はさらに低・中・高に分化)の全教科において、特定単元の評価シートを作成した。各校の教務主任と教科担当者が協力することで、単元中の児童生徒の具体的な活動や、それらの活動がどの観点で評価されるのかを整理することができた。また、これまで4観点の中のある観点で評価されていた内容が、3観点評価ではどの観点で評価されるべきなのかといった諸課題に対して、まずはこの評価シートを活用していくことで、3観点評価についての考え方を、地区内の小中学校で共有していきたいと考える。</p>
愛知	岡崎市現職研修長期欠席対策部会	長期欠席児童生徒の自立に向けた有効的手段の研究～校内フリースクールの設置とそこから見える9つのメソッド～	<p>岡崎市では、これまで全国的に課題となっている不登校児童生徒の対策について組織的に取り組む中で、昨年度、市内3校にこれまでの適応指導教室を発展的に解消した校内フリースクール「F組」を設置した。F組では、最終的な目的を教室復帰ではなく社会的な自立と学校復帰と定め、在籍する生徒が従来の教育課程の枠にとらわれることなく、得意なことや強みを伸ばすことができるようにするために多様な活動の場を創出している。1 本年度の研究内容                      ○臨床心理士、作業療法士等専門的な知見を有する専門機関との連携を推進した。                      ○個に応じた学習サポートのための個別学習支援ソフト「QUBENA」を導入した。                      ○交流・体験活動として臨床美術士による絵画教室チャレンジマイアートを実施した。                      2 本事業を通じた効果と評価                      本事業を通して不登校生徒がその子らしく活動する場を設けることができた。そして、F組在籍生徒が学習の習慣を確立し、自らの将来の夢や希望を膨らませ、進路選択をすることができた。</p>
愛知	愛知県立津島高等学校	水辺の生き物から生物多様性を考えよう！～学校間および地域・企業との連携による在来生物保護プロジェクト～	<p>近接する2つの高校および企業との連携により、地元自治体より依頼されたビオトープの管理運営を行い、濃尾平野西部の在来生物の保護と外来生物の駆除およびその有効活用について研究し、SDGsに関連づけた環境教育の教材づくりを行った。                      ビオトープに侵入した外来生物に関して、ミシシippアカミガメの駆除および処理個体の農業肥料としての有効活用(令和2年度 専門学校生徒の研究文コンクールで最優秀賞・経済同友会賞を受賞)、カダヤシに駆逐される在来種メダカの保護などの研究を行った。今後、メダカすごろくを作成し、環境保護、生物多様性を考えるための学習教材として地元の小中学校などへ配布予定である。また、令和4年度夏に一般市民を対象としたビオトープの自然観察会を行う予定である。</p>
兵庫	i-net	神戸市立高等学校教員による学びのネットワーク(i-net)構築の試み～現役教員が自ら豊かな学びを得るために～	<p>主要な研究成果                      今年度、i-netから実践道へと名称を改めた。i-netはヨコの繋がりをづくり、各自の課題解決のためのヒントを得る場であった。実践道では、自己完結せず、勤務校をより良くするための一歩を踏み出すことを目指す。                      実践道は希望参加ではなく、各校ミドル世代の有志2、3名が参加し、組織を動かすための実践知や先行事例を報告し合い、来年度小さな一歩を踏み出すための素地を築く。具体的には、A校で若手研修を始めたという話に刺激を受けて、B校では評価の研修を立ち上げたという話が報告された。参加者は課題を共有しながら、目標に向け互いに切磋琢磨してきた。来年度は、「実践のための1年」と位置づけ、全ての学校がたとえ小さな一歩であっても、動き出せる1年にする。</p>
山口	山口県立山口総合支援学校	幼児期の視覚支援を用いた集団づくり	<p>【研究の成果】                      ・今年度は訪問支援対象園を拡大した。研究成果をもとに、発達段階に応じた「育てたい力」「その支援方法」を具体的に提案できるようになり、各園の年中～年長児に変容が見られた。                      ・今年度の訪問支援を行うで、新たな視覚支援の有用性が挙がってきた。                      【今後の課題】                      ・今後も継続的な取組として地域の園へ還元できるよう、モデル事業を通じて得た研究成果を関係諸機関と検証する必要がある。                      ・保育者へ個別に支援してだけでなく、研究成果を広く還元できる研修会を設けるなど、園全体への支援も重要になる。</p>



都道府県	学校名・個人	研究主題	主要な研究成果
北海道	東川町立東川第二小学校	かかわり合い、考え、行動する子を育成する ～教科経営を通じた、教頭としての児童への関わり、教師への関わり～	<p>研究の成果</p> <p>教頭職5年目、眼前の業務に追われる毎日、全ては児童のため、「初心忘るべからず」教師を志した目的を忘れぬよう過ごしている。立場が変わり、職員のためという視点が加わった。本研究を通し、一教師として教科経営を実践しつつ、管理職として学校運営の視点から、教科経営の改革にあたった報告を記す。</p> <p>教科実践にNIE(教育に新聞を)を導入、児童の学習意欲喚起を重点化し、写真、大見出しをきっかけに、知っていることへの関心が深まった。GIGAスクール推進に伴い、タブレットの板書活用を促進させた結果、時間短縮に留まらず、資料添付や重要語句の解説を教科書から貼り付ける等、個々の思考を形づくる絶好のツールとなった。</p> <p>通常の教頭業務を担いつつの教科指導は激務だが、時代の要請から、進化し続ける教育に携わる幸せが上回って、現在に至る。</p>
秋田	秋田県立男鹿海洋高等学校	本校生徒の読書活動推進に向けての図書部の実践 ～「図書だより 知の世界へ」を通じた良書の紹介～	<p>(1)全国読書感想文コンクールへの継続的出品及び入賞 今年度は新入生の入学が少なかったこともあり、全国読書感想文コンクールへの出品は1点しかなかったが、この作品が入賞を果たし、本校として3年連続の入賞を実現することができた。入賞した生徒は本校図書館所蔵の課題図書、寺地はるな『水を縫う』に関心を持ち課題図書部門に出品した。</p> <p>(2)郷土文学を対象とした出版物の刊行 本校図書館には数多くの郷土文学に関する書籍や郷土資料が所蔵されているが、所蔵図書の中でも一定数使用可能な『秋田一ふるさとの文学』(無明舎出版)を教材とした授業、並びに「図書だより 知の世界へ」で紹介した読書案内「三浦綾子『母』(角川書店)」の紹介などを収めた、『ふるさとの秋田の文学を学ぶ～郷土文学を教材とした2つの授業～』を2021年12月に刊行することができた。</p>
山形	酒田市立若浜小学校	地域の自然資源に誇りが持てる子どもの育成 ～社会教育の視点を活かした総合的な学習の時間のカリキュラムの作成～	<p>(成果○・課題▲)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもたちが川をきれいにするために、主体的に考えるようになった。</li> <li>○ 川をきれいに保つための看板やポスター・パンフレットを作成し、地域のコミュニティーセンター等に置かせていただいた。</li> <li>○ 看板を設置する際には、地元のマスコミにも連絡して取り上げてもらうことで、子どもたちの活動をより広く地域の方に知ってもらうことができた。</li> <li>○ 今回の取り組みが教職員にも伝わり、各学年の総合的な学習の時間がより充実したものになるように、地域の人材や組織をつないでいく意識の高まりが見られた。</li> </ul> <p>▲ 川の美化に関わる地域の方々が高齢化し、活動の存続が危ぶまれている点は解決できていない。PTAや企業などを動かし、今後も川の美化が保たれるように、学校全体で取り組んでいきたい。</p>
神奈川	神奈川県立相原高等学校	高等学校世界史AにおけるOPPA(一枚ポートフォリオ評価)の実践 ～「主体的に学習に取り組む態度」の適切な評価を目指して～	<p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 富高等学校で次年度から始まる新学習指導要領における観点別評価について、校内での研究や議論が深まるとともに、具体的で実現可能な評価方法についての検討が進んだ。</li> <li>● 生徒への授業評価アンケートの結果、「授業を通して、現代社会に関する関心が高まったか」という項目において、9割以上の肯定的な回答が得られた。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「主体的に学習に取り組む態度」の観点を適切に評価することは、依然として教員にとって大きな負担と考えられる。いつ、どのような方法によって形成的評価を行っていくか、組織としての理解と実践が求められる。</li> <li>● 国立教育政策研究所『学習評価の在り方ハンドブック』によると、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する際、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で評価しなければならないとあるが、各観点にばらつきが出ないような評価の在り方について研究を進める必要がある。</li> </ul>
新潟	上越市立大町小学校	通級指導教室における一側性難聴児への支援 ～先天性、後天性等、失聴時期に合わせた支援で一側性難聴児を救う～	<p>一側性難聴を対象としている通級指導教室は全国的に見て非常に少ない。しかし、一側性難聴児も両側難聴児と同様に、難聴による困り感や不安感を抱えている。子どもの話をよく聴き、一人ひとりの聴力や失聴時期、生活している環境に合わせて教材を作成することで、一人ひとりに寄り添った通級指導ができたと思う。また、個別の通級指導だけでなく、同じ一側性難聴の子どもや先輩とかかわる機会をつくったり、在籍校への理解啓発を行ったりしたことで、将来に対する不安感を軽減したり、分かってもらえないという孤独感を和らげたりすることができた。一側性難聴も支援の必要性があることをより多くの人に知ってもらい、各地で一側性難聴児が救われることを願う。</p>

都道府県	学校名・個人	研究主題	主要な研究成果
新潟	新発田市立佐々木小学校	批判的思考(クリティカルシンキング)を働かせる算数授業づくり ～「情報不足の問題」と「思考をゆさぶる発問」に着目して～	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報不足の問題提示をして、情報を徐々に明らかにすることで、子どもたちは「その答えでいいのか?」「他にどんな可能性があるのか?」と批判的思考を働かせていた。</li> <li>・多くの子どもたちが「あたり」の共通点を「分けられた4つが同じ形」で納得していた。そこで「同じ形?」と子どもの思考をゆさぶる発問をしたことで、子どもの批判的思考が働き、「あたり」の共通点として「同じ大きさ」が大切であることに気付かせることができた。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本研究の手立てが他領域でも有効なのか、他の有効な手立てはないのかと研究を重ねていきたい。</li> </ul>
新潟	上越市立名立中学校	「思考力・判断力・表現力」を育成する指導の工夫 ～帯活動を軸とした、バックワード・デザインの授業づくり～	<p>1 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動画の分析やアンケートからは、一定の効果が見られた。</li> <li>・バックワード・デザインにおける授業を行ったことで、生徒の意欲が高まった。</li> <li>・本研究では学校生活で発話量が多い生徒ほど多くの発話が見られ、逆に発話量が少ない生徒は、正確な英語を話す、英語の発話量も少ないことがわかった。</li> </ul> <p>2 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査期間が少なかったため、今後も継続して研究していく必要がある。</li> <li>・帯活動を通じた発話量を増やす指導は継続し、[やり取り]や[発表]場面で活用することができる、「思考力・判断力・表現力」を育成していきたい。</li> <li>・帯活動で同じ生徒同士で話すのではなく、より多くの生徒と話す機会を増やすことで、生徒一人一人が自信をもって話すことができるよう指導していきたい</li> </ul>
富山	射水市立射北中学校	SDGsの達成に向けて、主体的に行動できる生徒の育成 ～社会科、総合的な学習の時間の横断的な取組を通して～	<p>SDGsの達成には、目指す未来を考えて主体的に行動できる生徒を育成が必要だと考え、社会科の授業や総合的な学習の時間等を活用して、実践した。特に社会科の授業では、毎時間SDGsの視点を意識した学習課題や授業展開を工夫し、生徒への浸透を図った。実践の成果を確認するために実施したアンケートでは、昨年まではSDGsについて知らなかったと答える生徒が7割以上いたが、現在は全員がSDGsについて知っていると答えた。また、「日常生活でSDGsを意識して行動している」と答えた生徒も6割近くおり、SDGsに対する認知や意識が高まっていることが分かり、一定の成果があった。今後も実践を継続していく予定である。</p>
長野	上田市立塩尻小学校	コロナ禍における音楽科学習の意義と大切さ ～感染症対策と、音楽科での学びの両立を図る試行錯誤と発信～	<p>研究の成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マスクごしに息が入る仕組みを発案したことで、リコーダーや鍵盤ハーモニカといった楽器を感染対策と両立して使用できるようになり、音楽を通じた他者との関わりの充実といった音楽科の学習活動の充実を図ることができた。</li> <li>・自作の用具説明動画や既存のメディアで全国に発信することで、感染の広がりや縮小される状況にあった音楽科の学習を「広げていく」ことに寄与することができた。</li> <li>・マスクをしたままリコーダーが演奏できる発案は、息づかいを大切にしたい学びの確保に重要であるが、あくまで既存の学習題材を生かすための方法であった。</li> <li>・今後も続くと思われるコロナ禍にあって、音楽科における新たな学び方を探り、個別最適な学びと協働的な学びを実現するために、ICT機器や一人一端末の活用を視点に実践研究して発信を続けたい。</li> </ul>
長野	長野県上田養護学校	新しい生活様式を活かした豊かな自己表現の育成 ～肢体不自由特別支援学校におけるオンライン学習を通して～	<p>(1) 休校中のオンライン授業や、教室でのソーシャルディスタンスを取るためのICTの活用などにより、新しい生活様式を求められる中でも、児童の学びを保証できた。</p> <p>(2) 初め、友達の前でなかなか発言できなかった児童が自由に発表するにいたるまでのスキルを、ICTの力を借りながら小さなステップを踏んで獲得してきたことによって、対面の話し合いの中でも自分の意見を発信できるようになった。</p> <p>(3) 肢体不自由のある児童にとって、オンラインシステムが「手」や「足」の代わりになったことで、身体的な理由による学習上の困難を軽減できた。</p>

都道府県	学校名・個人	研究主題	主要な研究成果
静岡	静岡市立服織小学校	若手教員に伝えたい社会科教材開発の仕方について ～4年生社会科地域の発展に尽くした人々の教材を通して～	<p>研究の成果 「社会科の授業はちょっと苦手」という相談をよくわかつての教員から受ける。特に地域教材を開発する3・4年生の担任からの相談が多い。本研究では、具体的な教材「4年生 地域の発展に尽くした人々」を例に挙げながら、どのように教材開発を行うのか丁寧に解説した。特に教材化へのチェックポイントを次の3点、地域のために活躍していること、現在もその功績が生かされていること、未来もその功績、思いが生かされ続けていくことを明確にした。そのことによって、若手が教材開発のコツをつかめるようになった。</p> <p>今後の課題 教材を作成している上で大切なことは目の前の子どもたちに「合う」教材を作成していくことである。教材としての価値と自分の学級の子どもたちにとっての価値を高める教材を考えていきたい。</p>
静岡	静岡市立富士見小学校	対話の力をつける段階的な取組への挑戦 ～対話的な学習をスタートカリキュラムや教科で取り組む～	<p>&lt;研究の成果&gt; ・対話的な学習は段階的で計画的な取組により、どの学年でも自分らしく表現する方法を身につけることができ自信につながった。 ・対話的な学習を入学時のスタートカリキュラムに取り入れ、繰り返し実践し習慣化することで「話す・聴く」の基礎ができた。 ・子ども主体の活動なので教師の子どもへのとらえが深まり、子どもへの見方を広げることができた。</p> <p>&lt;今後の課題&gt; ・教科学習の中に対話的な学習を計画的に組み入れ、小中一貫教育9年間を通して、積み重ねていくことで確かな力になることが期待される。 ・対話的な学習そのものが教科として成立する可能性も考えたい。グローバルに話ができる子どもを育成するために週1時間対話的な時間をカリキュラムの中に位置づけることを提案したい。</p>
愛知	愛知県立西尾東高等学校	再生可能エネルギーに関する授業展開の工夫 ～主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の提案～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果から、日頃エネルギーや環境問題に対して関心が低かった生徒もこの活動を通して興味・関心を高めることができた。</li> <li>・再生可能エネルギーについて関心を高めた生徒が多く、エネルギーに限られた資源であり、地球環境との関連性について理解できた。</li> <li>・これまで学習した内容をもとに調べ、考え、報告することによって既習事項の定着を図ることができた。</li> <li>・この活動をきっかけに、大学へ進学して環境問題に工学の観点からアプローチしたいという生徒もおり、高校卒業後の学びにつなげることができた。</li> <li>・班全員で活動することにより、消極的な生徒も意見を述べるなど</li> <li>・今後の課題として、これらの活動を観点別に評価する方法に結びつけ、探求的、協同的な学びの実現を目指したい。</li> </ul>
愛知	愛知県教育委員会西三河教育事務所	生きる力を育てたい ～一隅を照らす支援をめざして～	<p>1 不登校児童生徒と学校の相談室でのゲーム作り、体育館や公園での運動を通して、年1573回(面接396・電話221・通信920)の活動を実施できた。 2 10種類のカードゲームを子供たちと一緒に作成した。 ①ゲームや玩具づくりを家庭や学校で保護者と一緒に作成することで、子供は、自分が考えたゲーム等を作ったり遊んだりする楽しさだけでなく、その活動において、「思考力」「判断力」「表現力」を培うとともに、周囲の人との対面での会話の仕方を身に付け、「生きる力」を養うことができた。 ②作ったゲームを持ち帰り、家族や周囲の人に説明してゲームをすることで、「コミュニケーション能力」育成することができた。 ③施設や市の適応教室にゲームを寄贈した。多くの子供がゲームを通して、関わりを増やし、絆を深めることができたとの声が、多数寄せられた。</p>
大阪	岸和田市立八木小学校	授業序盤にゴールを周知する算数科の授業実践 ～インストラクショナルデザインの活用を通して～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インストラクショナルデザインを活用し、行動目標を含めたためあてを示すと同時に、本時のゴール(めあてを達成することができたかどうかを判定する課題の内容と合格基準)を周知する算数科の授業実践を行った。</li> <li>・第4学年の児童を対象とし、単元「わり算」で実践を行った。</li> <li>・本時のめあてを達成することができたかを判定する課題は、「休んでいる友だちに75÷5の暗算のしかたを手紙で伝える。」というものであり、授業序盤に周知した。</li> <li>・実践を行った結果、児童がより主体的に取り組むことができたとともに、授業内で重要なポイントや暗算をする上でのコツを多くの児童が理解できた。</li> </ul>



都道府県	学校名・個人	研究主題	主要な研究成果
鳥取	鳥取県立米子西高等学校	教師も生徒もわくわくする授業の実践 ～これが本当のActive Learningだ！～	<p>1年間の授業が終わり、生徒たちに、私の授業のコメントを書いてもらいました。以下がすべての生徒に共通するポイントでした。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. とにかく、楽しかった。</li> <li>2. 苦手だった英語が好きになった。</li> <li>3. YouTubeなどを取り入れた授業は、リアル感があった。</li> <li>4. 自分たちが主体となってやる活動が多かったのも、英語を使うことが楽しく、自信にもつながった。</li> </ol> <p>また、3年生が卒業した後、1,2年生の全クラスで、Taylor Swiftの“Shake it off”のラップ指導を実践しました。その時間担当の英語の先生方にもご参加頂き、全ての先生方から、次のような感想を頂きました。 『教師も生徒もわくわくする授業』の実体験ができたので、自分でも工夫して授業改善をやってみたいと思います。』</p>
山口	防府市立牟礼小学校	やりとりを楽しむ子どもの育成 ～インプットやアウトプットを狙う活動で仕掛ける対話を通して～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究対象学年(5年生)の意識調査(四件法で実施)では、95%超の子どもが「英語の勉強は楽しいか」の問いに肯定的な回答をした。また、「外国語の勉強は楽しいか」「英語で自分の考えや気持ちを伝えることができるか」のどちらにも最も肯定的な回答をした子どもが倍増(12人→25人)した。</li> <li>・子どもは、対話を通して学習に対する見直しをもって授業に臨み、英語の特徴やきまりへの気付きや、できるようになった自己への気付きを表出し、喜びを感じていた。</li> <li>・今後は、英語で反応・質問・応答する姿を示し、それらを使わせる場、価値付ける場、振り返る場設定し、目的や場面、状況などに応じた英語を使用する場面を仕組んでいきたい。</li> </ul>
宮崎	延岡市立一ヶ岡小学校	児童が主体的・対話的に取り組むことができる持久走学習の在り方 ～折り返し持久走の実践を通して～	<p>研究の成果・今後の課題【成果(○)課題(●)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「自分が気持ちよく走れるペース」の目標を全員が設定することができた。</li> <li>○ 実践後、実際に「気持ちよいペースで走れたか」をワークシートの記録で検証したところ、94%の児童が「気持ちよく走れた」と感じるようになった。</li> <li>○ ワークシートをもとにペアで目標ペースの見直しを行う等対話的な姿が見られるようになった。</li> <li>○ 持久走の学習に対する意識が、好意的になった児童を増やすことができた。</li> <li>● 限界に挑戦したい、順位やタイムを競いたいと考える児童にとっては、少し物足りなかったようである。今後は、最後の何往復かを「ラストスパートタイム」のように名付け、自分が走りたいペースで走れるようにする等の方法も検討していきたい。</li> <li>● 体力向上のためには、運動の日常化につなげることが大変重要であると考え。今回指導した「四歩一呼吸」や「心拍数測定」等は、今後も授業の中で意識させて取り組ませたい。</li> </ul>